

グローブシップ

「企業でのDX導入の考え方」をテーマにオンラインで開催

第6回「お取引先Webセミナー」

グローブシップ(株)本社・東京都港区 矢口敏和社長は、毎年恒例となっている「お取引先セミナー」を昨年に続き今年もWeb上のオンラインで開催した。これは同社が2017年から毎年テーマを決めて顧客を対象に行っているもので、新型コロナウイルスの感染が未だ完全には終息していないことから、6回目となる今回も三度目のWebでの公開期間... 11月1日〜30日)となった。セミナーは一部構成で、今年のテーマである「企業でのDX導入の考え方」について有益な情報が発信された。



ビルメン業務の革新と省人化ビジネスモデル

挨拶する矢口社長

開催にあたり、同社 矢口敏和社長は「新型コロナウイルスの感染状況は減少傾向にあるが、引き続き予断を許さない状況が続いており、本セミナーについても今年も3年連続でWeb形式の開催とさせていただきます」とオンラインで行うに至った理由を語った。我が国では新型コロナウイルスの感染が広がり始めてから既に2年半以上の月日がたつ。この

間、人々は感染防止のための様々な試行錯誤を通して多くのことを経験して学んだ。そのことが起点となつて社会が大きく変わったことを世界は今、実感している。企業活動の観点でいえば、社員の働き方や企業運営の在り方の変化が顕著になった。実際、多くの会社ではこれまでの働く時間と場所を固定する働き方からテレワークやリモート会議などネットやオンラインを活用した、より柔軟で合理的な働き方や仕事の進め方が急速な広がりを見せている。昨年の本セミナーでは、こうした動きを受けて『働き方改革とニューオフィス』というテーマで働くオフィスやワークプレイスの役割や新しい使い方について取り上げた。そして今、こうした働き方改革や新たな働き方を更に推し進める中で、本来の目的である仕事の質を高め、高い労働生産性を実現することが多くの企業にとって大きな経営課題になってきている。その解決のカギを握るのがDX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みと推察される。こうした背景を踏まえ、矢口社長は、「今回のセミナーのテーマを『企業でのDX導入の

考え方』とした」と説明した。経営の在り方をも変えていく可能性を秘めている。実際、最近の企業活動においてマーケティングや商品・資材の仕入れ、在庫管理、更には産業機器やビル設備の保守点検など幅広い領域で最新のデジタル技術を活用して、これまでのやり方を大きく変える試みが行われている。

グローブシップでもこのDXの考えを取り入れ、会社運営の手法を革新するとともに顧客に提供するサービスの品質向上と効率化に取り組んでいる。そして他の会社でも同様の問題意識からDXに取り組んでいることが推察される。

人間中心DXの考え方とDX推進のポイント
2022年11月 デジタルトランスフォーメーション推進部 部長 河合 一憲
EUFJリサーチ&コンサルティング MUFJ

第6回お客様向けセミナー
わが社の「ビルのDX化・スマートビル化」提案
GLOBESHIP
FMDX開発事務局 担当役員 藤橋 博徳

Aeolus (アイロス) 概要
最先端の技術を搭載し、拡張性も備えているため様々な作業が可能
AI機能 ロボットアーム
学習内容を皆で共有 3Dカメラ機能
多機能ロボット「アイロス」を紹介

人間と協働するDXは判断や行動をアシスト
セミナーは一部構成で行われ、第一部では三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)デジタルトランスフォーメーション推進部の河合一憲部長が「人間中心DXの考え方とDX推進のポイント」と題して講演。同講演では人間と協働・コラボするDXという視点で、企業がDXで取り組むべき課題を解説した。それによると、人間と協働するDXはデータの分析などにより人間の判断や行動をアシストするもので、DXにより人間は判断が的確にできるようになり、付加価値の高い業務に注力することができるとした。

また、同氏は様々な企業での効果的なDX導入事例を紹介し、より踏み込んでDXの本質に迫った。続いて第二部では、グローブシップの現場における取り組み事例を紹介。同社では今年度よりスタートした第三次中期経営計画でDXを主要な戦略の一つとして位置づけ、その推進に取り組んでいる。具体的には今年4月にFMDX開発事務局を立ち上げ、ビルメンテナンス業務の革新と省人化ビジネスモデルの實現にあたっている。セミナーでは同社の特徴ある5つの現場でのロボット・DX活用事例や顧客のインタビュを動画で配信、更に最先端のIT技術を擁する(株)ワフルと連携し、センシング技術を利用して空調や照明設備、エネルギーデータ

を計測・判別し管理化状況を見える化するスマートビル化に関する取り組みも言及し、省人化や省エネルギー化をはじめ管理業務の効率化や、そこで働く人々の快適性なども一体的に図るビルの管理手法を概説。また同じく他社との連携により、消毒や警備を目的とした多機能ロボット「アイロス」の実用化に向けた取り組みの現状も紹介した。グローブシップでは今後も様々な専門性を有する企業との連携・協働を積極的に進め、業務の省人化や効率化に加えて新しいFMDXサービスを顧客に提供し、ビル全体の管理の最適化に努めていくと宣言。また、会社運営においても昨年からはフリーアドレスを導入し、働き方改革を推進すると共にITを活用した契約などの電子化、ペーパーレス化なども進め、DXの真の向上に向けて今後も取り組んでいくと発信した。